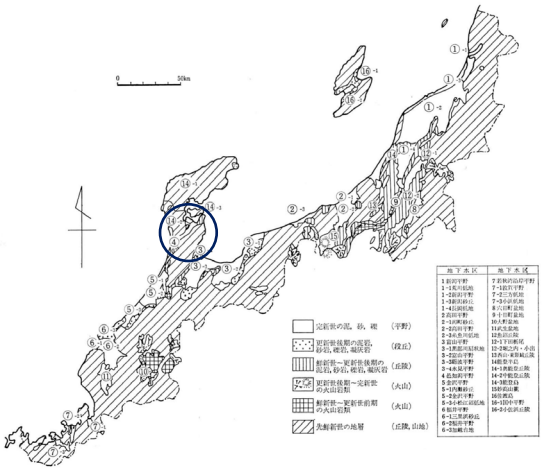
4.邑知平野



地形・地質

邑知平野は，能登半島の基部を斜めに横断し，幅 3km～5km，長さおよそ 27km の地溝状の低地帯です。地形上の特徴から，平野南西部が低湿な邑知潟低地，中央部が鹿島扇状地，北東部が七尾低地に区分されます。能登半島の基盤は，先第三紀の花崗岩・片麻岩類と推定され，第三紀層・洪積層・沖積層がそれを覆って堆積しています。

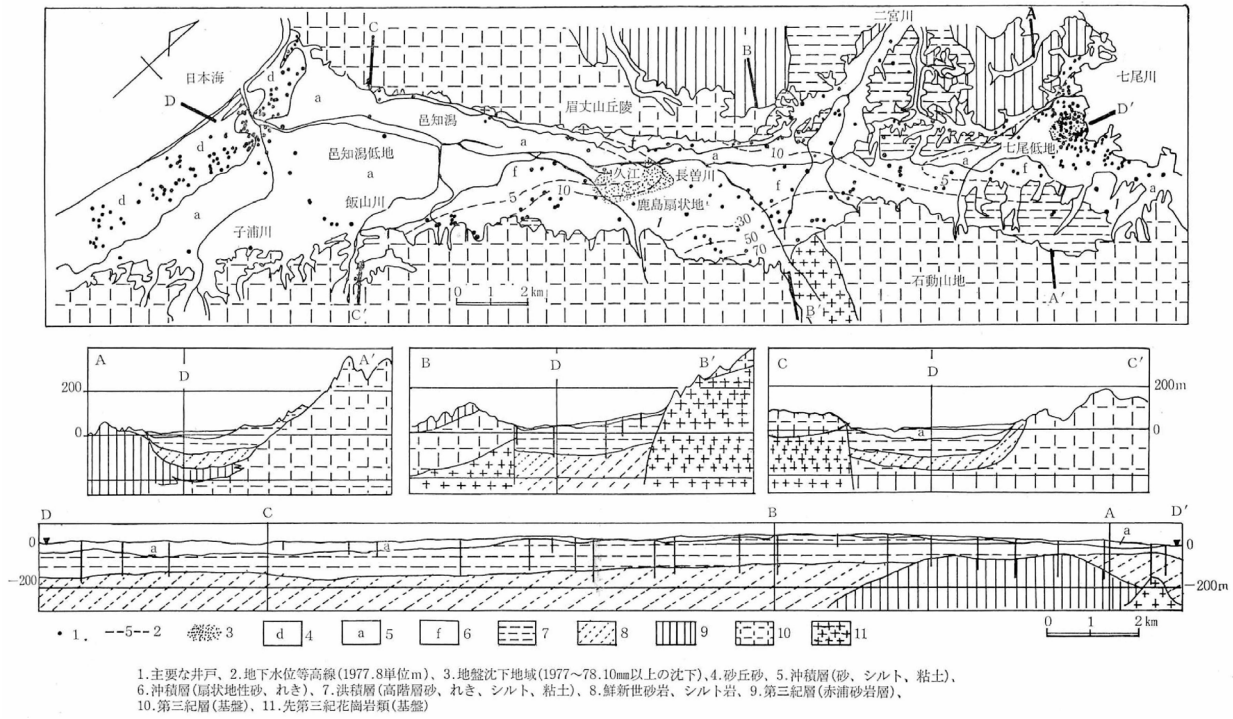
邑知平野の標準地層層序

時代		地質	層序 平野西側	層序 平野東側	地形	帯水層
第四紀	完新世	砂・粘土	(沖積層)		七尾，邑知潟低地	○
		礫・砂・粘土	(〃)		鹿島扇状地	◎
	更新世	砂・礫・粘土	(段丘堆積物) 高階層		台地	○
		礫層	小島層	古府層		◎
				中川層		○
新第三紀	鮮新世	砂岩			丘陵	○
		シルト岩				×
		シルト岩		杉野屋層		×
	中新世	泥岩	赤浦層	聖川層		×
		砂岩			丘陵～台地	◎
		礫岩	眉丈山層	高畠層	丘陵	×
				城山層	山地	×
		泥岩		国見層		×
		安山岩類	穴水累層			×
先第三紀		花崗岩類・片麻岩類				×

◎ 良　○ 普通　× 難帯水層

地下水

洪積層は帯水層として最もよく利用されていて，鹿島扇状地に分布する井戸の大半は洪積層を対象としています。羽咋市（邑知潟低地）では沖積砂層が主要な帯水層で，鮮新世の砂岩層や赤浦砂岩層も，良好な帯水層を形成しています。七尾低地では，洪積層のほか鮮新世のシルト・細粒砂岩層からも盛んに取水しています。



邑知平野の水文地質図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）